

# サンディエゴ日本人教会トピックス【2017年2月】

日々温かさを増してゆくサンディエゴのこの頃です。恵の雨を頂いた後には、燦燦と輝く太陽、大きな青空の彼方には、白雲がぽかぽかと浮いていて、早初春の頃となりました。あの寒かった日々、教会行事の一つであった蛤狩りもキャンセルになるほどでした。その後皆様如何お過ごしですか。神様の豊かな御祝福をお祈りいたします。

今月のトピックスは次のものを掲載いたします。

1. スープ・ランチ（英語部主催）
2. 婦人会での証（コラネリ美佐子姉・本多光代姉・ラッドとし子姉）

## 1. スープ・ランチ（英語部主催）

二月の第一日曜日は、通常カレーランチの日です。しかし、今回は英語部によりクリエイティブなスープ・ランチが催されました。英語部の礼拝が終わり、日語部のバイブル・スタディーの後、テーブルの上には、ありとあらゆる種類のスープのお鍋が10ほど並び、どれもとても美味しそうで、いただく人はどれにしようかと、目を見張って選びました。

その上、また、色々な種類のサラダとブレッドがあり、デザートがありと、大変豪華なランチとなりました。寒さの中、身も心も温まるスープに一同とてもエンジョイし、良い交わりの時を持って、温かい心で家へ帰りました。英語部の皆さん、心のこもったスープ・ランチをありがとう御座いました。とても美味しかったです

## 2. 婦人会での証

月に一度もたれる2月19日（日）の婦人会では、月のお当番さん方は、この婦人会を

リードされ、賛美し、役員さん方のビジネスの報告のあと証会がありました。指名された3人の姉妹方のお証をここに掲載いたします。

## 証：コラネリ美佐子姉

新年聖会のお証しを喜んでさせていただきます。私にとってイエスさまについて聞いたり、語ることは、とても大きな喜びです。この機会を与えられ、感謝いたします。

私が救われたのは、27歳の時でした。それまで家で聖書を読みながら、心の内で求めている神さまのお姿は、全知全能、私の全てを知り尽くしながらも、すっぽりと愛で包んでくださる方でした。

後に、詩篇 139 篇にダビデを通してその通りの神さまが記されていることを知りましたが、そんなある日、二世の本田ようこさんの家庭集会に招かれ、瞬時にして神の御子イエスさまを信じるように変えられました。感謝の涙とともに、聖書の最初のページから最後のページまで、誠の神の言葉であることを信じました。

それからは、神さまをもっと知りたくて、聖書の学びがとても楽しくなりました。それでも、教会には繋がっておらず、イエスさまに私の主となっていただくまでに二年が過ぎました。その年のイースターにナザレン教会へ導かれ、母の日には、「アメイジング・グレイス」を子守唄に歌う母のお話がありました。その日、私もそのお話の母のようにイエスさまを伝える母にしてください、私の主になってくださいと祈り、言い尽くせない神さまの愛と喜びの中にいました。

あれから45年の歳月が流れました。その間、数え切れないほどの試練があり傷だらけの葦となった私は、それにもまさる神さまの御愛を知らされてきました。新年聖会もその永い時の流れの中で受けた恵みの一時でした。

数年前に新年の聖句として詩篇 139 篇 23 節、24 節が与えられました。その時、神さまはすでに全てをご存じなのに、私の方からは、「私の心の深いところを知ってください」ということに、恐れとためらいがありました。それでも、私は本気になって、そこまで明け渡す必要があるのだと知り、祈りとともにそのみ言葉をかみしめました。

私が好きな聖書中の人物はバルナバです。しかし、ペテロを通して私は多くを教えられてきました。イエスさまに願って水の上を歩き出したペテロは、回りの風が恐ろしくなり溺れかけ、イエスさまに助けを求めると、イエスさまは直ちに彼を救われました(マタイ 14:28-31)。当時まだ若かった私は、大きな決断を迫られ、周りの現実は不安ばかりがありました。この箇所から、イエスさまにフォーカスするように教えられ、私の心はすっかり平安になった事を今も思い出します。

他にも、愛すべきペテロの失敗の数々が記されています。その中でも最たるケースは、苦しみの中にあるイエスさまを三回知らないと言ったことでしょうか。どちらかと言えば、行動派で正義感の強いペテロにはなんと情けない、惨めな敗北だったのでしょうか。それでも、復活されたイエスさまが岸边におられるのを知って、海に飛び込んで真っ先にイエスさまに近寄ったこのペテロでした。このように失敗を通して自分の力ではなく、神さまの力によって御国の働きがなされることを知る必要があったのでしょうか。その後も彼は、パウロを通し神さまの聖めを受ける必要がありました。

昨年11月頃から、私の心に迫るあるみ言葉がありました。それはイエス様がペテロに言われたとても短いお言葉、「私に従ってきなさい」ヨハネ 22:19、英語では、Follow me. です。このみことばを新年の私の聖句とし、私の余生のみ言葉としていただきました。

今回は初めての新年聖会でした。きっかけになったのは、案内状にあった「こおんな生き方あったのか！」というタイトルと、「あなたは祝福の基となるであろう」というアブラハム契約のみことばでした。どんな生き方？また、みことばがどのようにつながるのか知りたくなりました。

私には家族がいます。多くの喜びが与えられると同時に、愛するが故に誰かが苦しむ時、私も心配し辛くもなります。そして往々にして、私には助けることができません。そのような日々の暮らしの中で、先のペテロへの、イエス様の教え全てを含むような短いお言葉が、私の心深く響いていました。何もかも、イエスさまに信頼して従うようにと、優しくまたはっきりと、私の心に刻まれたのです。ところが翌日にはまたよそ見をしては悩んでいる私がいるのです。そして、私は期待と揺らぐ心を持って、聖会に向かいました。

第一回目の講義は、日本からウェストコビナに移られて一年になる井下泰文先生でした。

先生は、2 ペテロ 1:1-15 から、(ペテロ!)「あなた方が受けた召しと選びを確かなものにしてください」と題してお話されました。大変豊かな内容でしたが、ここではハイライトを記すまでに止めます。

- 1、召された方を知ってその召しと選びを確かなものにしてください。
- 2、主イエスを知ってその召しと選びを確かなものにしてください。
- 3、これらのことをいつも思い出して召しと選びを確かなものにしてください。

イエスさまを全人格的に知る。霊、知識と共にこの方を体験する。愛になるまでに歩みの段階がある。信じるのはスタート地点でゴールではない。ペテロが言う、努力して信仰に加えることの中でも、兄弟愛を同じ目線の間柄と言われ、それに加える愛はすなわちアガペの愛、満たしていただける愛と言われました。はい、無償の愛ですね。満たしていただける愛… ここで私はもう少し説明していただきたく感じ、メッセージの後でお尋ねしました。すると先生は、私たちが持ち合わせないものと言われ、その時、なぜか私の心の中にストーンと落ち着くのを感じました。信仰は努力ではない。傷も隙間もある信仰から、密度のあるものに成長していくのだと思いました。

大川道雄先生のお話は、創世記 9 章 13 節、15 章 12 節から、試練の雲の中に神様の約束の虹がある。雲と暗闇を破って神に近づくのです。

信仰とは、判断力、見通す力、常識を脱ぎ捨てる… 信仰が単純化されること。神との関係がシンプルになることを望んでおられるのです。イエスさまだけが見えるところに到達しなければならないのですと言われ…私はハイ！と心に受け止めました。

イエス様の選びによって後に初代教会を担い、二通の手紙を残してくれたペテロは、全てを捧げてイエスさまに従い、今は、かつて山上でびっくり仰天して見た神の栄光の雲の中で、イエスさまと、モーゼとエリア、そして先にいった数え切れないクリスチャンたちといえるのですね！

溝口俊治先生が、「最近、ホーリーネスが語られなくなっている」と、少し寂しそうに言われました。幸いにも私たちの教会では、大倉先生が、クリスチャンの成長に欠かせない聖化につながる教えを、常に説いてくださり励ましてくださいます。私には、教会生

活はとても大切です。特に礼拝では、先生のメッセージを通し、時にかなった神さまの恵みを一身に受けています。

「こおんな生き方」は、聖霊さまによって、聖化されながら歩み続ける、恵の人生を指していました。

これでよかった！と、また確信を新たにされました。丁度、よそ見をしながらも、親にしっかり手を取られ、行くべき方向に歩いていく子供のように、私も、イエスさまに手を取られ、心の中の石ころを取り除いていただき、その分神さまの善きもので満たしていただきながら、イエスさまに従って歩んで行きたいと願っております。ハレルヤ！神の栄光、主イエスさまに心より感謝いたします！

## 証：本多光代姉

「主に感謝せよ、主は恵み深く、そのいつくしみはとこしえに絶えることがない。」（詩篇 136:1)

1969年12月22日に神様の子供としていただき、47年もたちました。その間、神様はいつも共にいて下さり、最善を成して下さった事、心より感謝しています。神様から遠く離れていた私を、主人の渡米によって教会へと導いて下さいました。

アリゾナ州フェニックスのフリーメソジスト教会です。日英両語部在りましたが、日本語は12,3人の集いで、殆どが高齢の方々でした。メッセージはテープを聞き、賛美はいつも421番でした。メッセージは殆どわかりませんでした。そこに集われる方々の、信仰と主にある柔和なお姿に接し、私もあの方々のようになりたいと思い、毎週、主人、娘（リエ）、息子（一米）と共に教会生活が始まりました。

「主イエスを信じなさい。そうしたら、あなたもあなたの家族も救われます。」（使徒 16:31）。その後、サンディエゴに導かれ、サンディエゴ教会のメンバーにして頂きました。リエ、一米共に良き伴侶を神様が与えて下さり、8人の孫も与えられ、5月には、ひ孫が与えられます。それぞれの場所で主の日を守らせて頂けること、祈り会う事の出来ること、神様のお恵みを沢山頂いていることに感謝です。

「あなたがたの救われたのは、実に、恵みにより、信仰によるのである。それは、あなたがた自身から出たものではなく、神の賜物である。決して行いによるのではない。それは、だれも誇ることはないためなのである。わたしたちは神の作品であって、良い行いをするように、キリストイエスにあって造られたのである。神は、わたしたちが、良い行いをして日を過ごすようにと、あらかじめ備えて下さったのっである。」(エペソ 2:8-10)

## 証：ラッドとし子姉

聖会とは、聖なるお方に出会うところです。聖なるお方に会いましょうと！と、日々の生活から離れて、神様と交わることの大切さを教えて下さいました。

主題は「こおんな生き方あったのか！」聖句は創世記 12 章 2 節 「あなたは祝福の基となるであろう」

講師は北米ホーリネス教団の先生方でした。北米ホーリネス教団には素晴らしい牧師先生方が沢山居られ、今回の講師は井下泰文先生、大川道雄先生、溝口俊二先生、杉村司先生でした。どの先生方も信仰と霊に燃えて、熱く語られ、大変心を打たれました。沢山の事があり、良い学びで、本当に集会に来られて良かったと感謝しています。その中から私は第一集会の井下先生のメッセージの証をさせて頂きます。井下泰文(いした やすふみ)先生は、一年ほど前からこの教団へ新しく入られ、ウエストコビナ教会を牧会されて居られます。

聖書箇所は、Ⅱペテロ 1 章 1 節～15 節まででした。主題は「あなたの受けた召しと選びとを、確かなものとしなさい。」を三つに分けて話されました。

1. 召された方を知って、確かなものにしなさい。
2. 主イエスを知って、確かなものにしなさい。
3. これらのことを思い出して、確かなものにしなさい。

この第二ペテロの箇所は、ちょうど私達の教会のスモールグループ恵会で12月にお勉強したばかりの箇所でしたので、とてもペテロの言うことが良く理解できて、大変良いお勉強になり、恵まれました。(同じ箇所とは!!! 心の中で驚いていました。)

私が一番心に留めたことは、「信仰の歩みとは、日々の積み重ねです」と言われ、なるほど継続は力なりと言いますからだなあと、積み重ねの大切さを学びました。例えば聖書通読は、読むのが大変で、一回目はよく理解出来なくても、2回、3回と、回を重ねてゆくとき、徐々に理解してゆきます。「積み重ねが大切です」と語られました。

### 1. 「召しと選びの、召し」:

神聖な神であるお方が、私達を召してくださったのです。赦されて永遠のみ国に入りなさいと召され、神に迎え入れられたこと、そしてイエス様を信じる信仰を与えられたという事は、誠にすごい事だなあ〜と、神と共に歩む日々の幸いを再び感謝しました。

### 2. 「主イエスを知って確かなものにしなさい」:

聖書から、「徳に知識を、知識に節性を、節制に忍耐を、忍耐に信仰心を、信仰心に兄弟愛を、兄弟愛に愛を加えなさい。」信仰は一足飛びには成長しません。これらのみ言葉を行った積み重ねです。3年間も主と共に歩んだ、あの失敗の多かったペテロが、着実に実を結んだのです。蘇りのイエス様にお会いし、聖霊の御働きによって、ペテロは、この書を書くに至る信仰を与えられ、変えられました。

### 3. 「思い起こしなさい」:

私達は永遠のみ国に住むことが出来るよう、行いの伴った信仰を身に着け、日々の行いや、言葉遣い、自制心を養って、神のご性質に与る者となるために、励みなさい。ペテロは主の後姿をみて学び、蘇りのイエス様にお会いして変えられ、み言葉を伝える者となりました。私達も救われたことを思い起こすことが大切です。即ち、聖書のみことばを通し、十字架上でイエス様が血を流されたその意味を深く思い起こすこと、この事のゆえに救われたことを、初心に帰って思い出すことの大切さを、心に深く受け止めました。

み言葉を読んでも、メッセージを聴いても、この年になると中々覚えられず、頭の上を通り過ぎてしまうことがあります。しかし、積み重ねることによって、思い出させていただけます。そして信仰の糧となって、必要な時に、自分のものとなり、信仰の成長に繋がっていくのだと学びました。

また、新年聖会は、夏期修養会へのさきがけのような集会と伺っています。「この夏の修養会へは、今から準備して、皆さんで聖なるお方にお会いしに行きましょう」と、豊かなお恵みを頂いてまいりました。主のみ名を褒めます。ハレルヤ！

ラッドとし子